

「現代アートの記録と記憶」プロジェクト 活動の記録

Morphe '95-2000



P+ARCHIVE (ピープラスアーカイブ) プロジェクト 社会と関わるアートアーカイブの形成を目指して

P+ARCHIVE は「地域・社会と関わるアート」のアーカイブをつくることを目的とし、2010 年から活動をスタートしました。

プロジェクトの名称である「P+」には、<PUBLIC>、<PROCESS>、<PEOPLE> といった 3 つのP がもつ意味合いが込められています。これはまさしく、本アーカイブが対象とする社会との 関わりを求めるアート活動にとって、活動の核となるものだと考えるからです。

地域・社会と関わるアート活動は、完成した芸術作品ばかりではなく、創造の背景やプロセス等が 重要であり、その活動において作成された記録資料を保存していくことは、次の活動に活かしていく ための貴重な資源となっていきます。しかし今まさに現在進行形の活動プロセスは、目の前にある運 営や制作の作業に追われ、資料を整理・保存する余力などないのが現状です。このような資料の散逸 により、すでに多くの活動記録が失われています。P+ARCHIVEではこれらの活動の資料を可能な 限り資源として残していくことを目指しています。

国内の先駆的アート・プロジェクトのアーカイビングを目指す「現代アートの記録と記憶」プロジェクトでは、今年度、1990年代に行われた『モルフェ』の資料をアーカイブすることを試みました。この試みは、記録という手段以外ではその存在も消え去ってしまう芸術活動を現前化させ、その記憶を甦らせたい(記憶に呼び起こしたい)という思いから始まりました。反復不可能な一回性のプロジェクトであった『モルフェ』というアート活動を歴史にかすかに書き込め(人々の記憶に蘇らせ)、それが知的・創造的な資源の蓄積となっていくことを願っています。

末筆となりましたが、このアーカイブをつくるにあたり、ご協力くださった皆様に心よりお礼申し上げます。

平成 24 年 3 月吉日 NPO 法人アート&ソサイエティ研究センター P+ARCHIVE の「現代アートの記録と記憶」プロジェクトでは、主に 1990 年代以降の日本で行われたアート・プロジェクトに関する資料を収集しています。初年度の今年は、パイロット事業として、アートイベント「Morphe(モルフェ)」に関する資料を収集しました。

- Morphe は 1995 年から 2000 年にかけて、東京・青山を主な舞台として開催された、地域型のアートプロジェクト。ギャラリーを中心に、ブティック・喫茶店・自動車ショールームなどで、現代アートの展示・上演などを行った。
- 1994 年に青山で開催されたアート・イベント「マニフェスト」の発展形。変容し続ける世界を俯瞰する視点から、夢と眠りを司るギリシアの神モルフェウスにちなんで、「Morphe」と名付けられた。
- 当時の東京・現代アートの中心地である銀座に対して、ファッションの最先端の地、青山から新しい流れを生み出そうとしたのが、「マニフェスト」=「モルフェ」である。
- 1994 年、青山にミヅマ・アート・ギャラリーを開廊した三潴末雄、AKI-EX の秋薫里らによって 立ち上げられ、1995 年から 2000 年まで仲世古佳伸が総合ディレクションを務めた。
- 1995 年のテーマ「亀裂: City Crack」は、阪神大震災・地下鉄サリン事件など、同時代の「都市の危機」と正面から向き合ったもの。また、1998 年には三重県・南勢町をもう一つの舞台に加え、2000 年には香港の ART scope とコラボレーションするなど、毎年特徴のあるプログラムが行われた。











994

/ 199.

/ 1990

/ 199.

/ 1998

/ 2000

マニフェスト AAANIJEEST **亀裂** City Crack

莫 Asian Wing 連鎖 Transmisso 海流 Beyond The Horizor <mark>亜細亜遺伝子</mark> Asign Meme

青山で現代アートの可能性に挑む ― モルフェについて

三潴末雄

昨今アートによる *街おこし、が盛んだが、モルフェと呼ばれるアートイベントが 90 年代に青山で開催されていたのをご存知だろうか?

私が1994年から組織化した「モルフェアートイベント」は、日本の最先端を走るファッショナブルな街と言われた東京の青山地区で始まった。当時は東京の現代アートシーンのメッカは銀座地区が主流であり、青山にはギャラリーが数軒しかなかった。私は銀座のギャラリーの雰囲気と作品が好きになれなかったために青山地区に開廊した。当然、流れに乗っていないのでお客が少なかった。まずこの局面を打開するために注目されるアートイベントを開催することを企画したのだ。一回目はマニフェストと呼ぶプレ・イベントを行い、翌年から仲世古佳伸君をキュレータに起用し、アキエックスギャラリーの秋薫里さんと私の二人が共同代表でモルフェを始め、これを2000年まで続けた。デザインはアゾーン・アンド・アソシエイツ(杉原寛代表)が担当してくれた。モルフェを始める動機は、人を青山に呼び集め、アートシーンを盛り上げたい一念だったが、街の活性化を図る必要がない場所だった。流行の最先端の魅力的な商品が溢れる青山地区は輝いていたからだ。ブティックには人々が溢れているのに、ギャラリーは閑散としていた。それが悔しかった。

現代アート作品を消費文明の最先端を行くお洒落な商品と並べて勝負したいと思った。美術館やギャラリーという制度の中で守られている現代アートを、青山地区をリードしている最先端のブティックや車のショウルームに展示したらどうなるかチャレンジを試みたのだ。結果は惨憺たるものだった。ブティックに展示した彫刻作品は踏みつけられ、街角に設置した作品はゴミと間違えられ捨てられてしまった。美術の制度の中で甘えた現代アートから脱却した強度のある作品を制作させなければならないと痛感した。7年にわたるモルフェの開催を通じ、実に多くのことを学んだものだ。

Sueo Mizuma (ミヅマアートギャラリー代表)



Morphe '95、会田誠・松蔭浩之・鳥光桃代の三人展 (ミヅマアートギャラリー)

三潴末雄氏が組織したアートイベント「マニフェスト」に参加したのが縁で、翌年の95年にキュレーターを任せられた。イベント名を、たまたま僕の提案した「モルフェ」に変えることで、リ・スタートすることになったのだが、半年しか準備期間の無い中で、はたして自分に務まるのだろうかと、緊張したことを今も思い出す。

95年は年明け早々に阪神大震災があり、春には地下鉄サリン事件が東京を襲った。近代化の後の、崩壊と宗教の文字が大都市を覆う憂鬱な空気の中で、この状況をそのままテーマにして、街の中へアートを投げ込んでみようと思い立った。まさにアートが試される場として、高感度の街である青山という場所は格好の舞台だった。しかし、消費文化の先端場所の渦中で、アートの価値観が思うように伝わらない都市の手強さに、僕も三潴氏も含め、混乱と狼狽の数年間を体験せざるを得なかったのが正直な感想だ。

だが、モルフェという7年あまりの季節の中で、ひとつの大きな事実というものがあったとすれば、アナログからデジタルに、急激に社会システムが転換する途上の真っ只中で、アーティストもまた変容を見せ始め、その価値観が都市という社会空間の内で、極めて個的な"思考の解放"を剥き出していったということだろう。たまたまの出来事であったが、さまざまなアーティストの、さまざまなアティテュードを表明する現場に、時代の目撃者のひとりとして関わっていたことの重要性を、今は強く感じている。

モルフェでは地域間交流の一環で、三重県南勢町(現南伊勢町)と青山を結ぶ試みや、香港の現代アートとのコラボレーションなども実践した。その年ごとの試みの中で、常に意識していたのは、人間の営みと芸術との関係を探ることであったように思うが、この問題意識は3.11以後の状況を踏まえ、一層に今日的課題として重くのし掛かっている。そういう意味ではモルフェの出来事は過去のことではなく、僕の中で今でも続いているのかもしれない。

Keishin Nakaseko (アート・ディレクター)



Morphe 2000 アートツアー 岡田裕子の作品「或る恋人 M 氏と S 嬢」を前に (ジャンポール・ゴルチエ表参道店)

「現代アートの記録と記憶」 プロジェクト Morphe '95-2000 資料アーカイブ活動

アート活動の現場では、膨大な資料や書類が日々蓄積されています。 これらは個人や団体の将来の活動を支える貴重な情報やノウハウ、経 験の宝庫であると言えます。しかし、現在進行中の運営や製作の作業 に追われ、それらを整理・保存する余力がないのが現状でしょう。





そこで、これらの貴重な資料が散逸してしまいがちな現状に対して、 その記録・保存を効率よく行うアーカイビングの方法を構築し、その 実践に関わる人々と共有することを、本プロジェクト「現代アートの 記録と記憶」の目的とします。

プロジェクトの3つの柱

目録作成

- ・寄託資料の登録
- ・簡易/詳細目録の作成

公開プログラム

- · 著作権、肖像権等の権利処理
- ・展示、トークショーなどの普及活動
- ・デジタルアーカイブでの公開(予定)

保存プログラム

- ・資料の保存状態の調査・点検
- ・劣化資料の修復
- ・資料のデジタル化

このプロジェクトでは、現代アートに関わる資料を収集した上で、3つの柱に沿ってプログラムを進めていきます。

- 「目録作成」では、収集した資料を一件ずつ登録していき、資料を管理する上での基礎台帳となる 目録(簡易/詳細)を作成します。
- 「公開プログラム」では、資料の公開に当たって必要な権利処置(著作権処理等)を行った上で、 専門の施設およびオンライン上での公開を行います。また、資料へのアクセシビリティ(検索手段等)を検討し、各種の普及活動を実施します。
- 「保存プログラム」では、資料の安全で永続的な保存をミッションとします。資料の保存状態の調 ・ 点検、資料のデジタル化などを行います。

資料の受け入れ

2011.08

- P+ARCHIVE では、現在日本各地で盛んに行われているアート・プロジェクトの先駆例として、 1990 年代におけるアート・プロジェクトの事例に注目しました。それらの中で、当時の事務局と の協議により、資料の提供(寄託)が実現したのが Morphe だったのです。
- 2011 年 8 月 8 日、当時の Morphe 事務局を務めていた仲世古佳伸氏・杉原寛氏より、資料の提供を受けました。
- 作家関係の資料や、記録写真のポジフィルムなどを中心に、資料総数は約 6000 点(ただし、この時点ではまだ数は不明であり、この点数は目録化の後に判明したものです)。両氏の説明を受けながら、資料にラベリングを行い、専用の容器への収納を行いました。











2011.08 - 12



- 資料を1点ずつ登録する作業を行い、「目録 (catalog)」を作成します。この目録が、Morphe 資料を管理する上での重要な基礎台帳となります。6000点もの膨大な資料を管理するには、目録の存在が必要不可欠です。
- 目録の項目は「標題」「作成者」など、以下に挙げる約70の「フィールド」から構成されています。 これを、1件の資料(=「レコード」)ごとに登録していくのです。

【取得に関する項目】 資料番号,取得日,取得元,取得形態

【編成に関する項目】 編成作業日,編成作業者,目録編成1,目録編成2,目録編成3,目録編成4,作家,会場

【公開に関する項目】 公開,公開備考,肖像権,個人情報

【基本項目】 基本項目入力日,基本項目入力者,ボックス番号,フォルダ番号,アイテム番号,枝番

号,容器,標題,作成者,収受者,年c,和曆,年月日(開始),年月日(終了),年月日

備考,媒体,掲載誌,同一資料,備考,内容説明

【詳細項目】 詳細項目入力日,詳細項目入力者,言語,サイズ,ページ数,筆記法,色,片面/両面

,綴じ,折り目,保存状態

【デジタル化に関する項目】 デジタル化作業日, デジタル化作業者, デジタル化番号, デジタル化備考, デジタル化

手段,使用機材,使用ソフトウェア,ファイルサイズ,幅,高さ,水平方向の解像度,

垂直方向の解像度

● 全資料の登録後、編成作業によって内容・形式別の分類を行いました。これにより、例えば「1995年のモルフェに関する資料」「作家・会田誠の資料」「青山スパイラルに関する資料」など、年次別・作家別・会場別…等、様々な観点から資料を探し出すことができ、さらにはそれらを複合的に組み合わせた検索が可能になります。

資料番号	標題	作成者	収受者	年c 1	回音	年(開始) 月(BE	(開)	年(終了	月(多日)	(終年)			掲載誌	同一資料	備考	内容説明
0001	Morphe'95報告書等	Morphe	-			1995 11	18	1995	12 1	10 会排		紙(上質紙)	-	-	-	Morphe'96企画に先立って提出された、'95
0002	Morphe'96開催梗要	Morphe	-			1996 11	22	1996		7 会!		紙(上質紙)	-	あり	-	見出し= Morphe96開催模要、協賛・協力・
0003	Morphe'97収支報告	Morphe	-			1997 12	22	1997	12 2	22 MF.F	成日	紙(上質紙)	-	-	-	収支報告
0004	Morphe96 翼-Asian Wing- 事後報告書	Morphe	-			1997 1 -		1997	1 -	f/F.E	成日	紙(上質紙)	-	あり	-	見出し=Morphe96開催概要、協賛・協力・
0005	モルフェ98収支実績	Morphe	-			1999 1	18	1998	1 1	18 MF	成日	紙(上質紙)	-	-	-	収支報告
0006	Morphe'96 翼一Asian Wing- 1	Morphe	-			1996 11	22	1996	12	7 全	期	紙(上質紙)	-	-	-	企画書
0007	「モルフェ96おもな関連イベント」	東京ウォーカ	-			1996 11	26	1996	11 3	26 発行	行日	紙(上質紙)	週刊「東京ウォーカー」	J -	-	メディア掲載記事、コピー
0008	「新しいカタチを発信する『Morphe'96』 この:		-			1996		1996		-		紙(上質紙)	不明	-	-	メディア掲載記事、コピー
0009	IdN Japan Association事業構想書(暫定版)	IdN Japan As	関係者各位			1996 9	26	1996	9 2	26 MF.F	成日	紙(上質紙)	-	-	-	IdNとMorpheとのコラボレーション企画書
0010	(図版)岡本太郎	Morphe	-	с -		1998		1998		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版、カラーコピー
0011	(図版)宮永甲太郎、中西学	Morphe	-	с -		1998		1998		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版、カラーコピー
0012	(図版)佐藤時啓、シュウゾウ・アヅチ・ガリバ・	Morphe	-	с -		1998		199B		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版、カラーコピー
0013	スケジュール	Morphe	-	с -		1998		1998		-		紙(上質紙)	-	-	-	スケジュール表
0014	予算	Morphe	-	с -		1998		1998		-		紙(上質紙)	-	-	-	予算
0015	REPRESENTATION-MAY	中世古佳伸	-	с -		1992		1992		1/F.E	成日	紙(その他)	-	-	-	図版、カラー
0016	(コンセブト)「私のアート活動は…」	中世古佳伸	-	c -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	アート活動のコンセプト
0017	(コンセブト)「私のアート活動は…」	中世古佳伸	-	c -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	アート活動のコンセプト(元原稿)
0018	(ブロフィール)	中世古佳伸	-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	プロフィール
0019	(回版)		-	С -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版、カラーコピー
0020	Media Towns Presents "SELF"	メディアタウン				1997 4	2	1997		4 会排		紙(上質紙)	-	-	-	チラシ原稿
0021	デジタルスケーブ	中世古佳伸				1997 4	2	1997	4	4 会!		紙(上質紙)	-	-	-	ブラン
0022		メディアタウン				1997 4	2	1997	4	4 会!		紙(上質紙)	-	-	-	チラシ
0023	Digital Scape Festival '97 実施概要書	メディアタウン	-			1997 2	12	1997	2 1	12 会		紙(上質紙)	-	-	-	実施概要書
0024	Digital Scape Festival '97 Exhibition by the '	メディアタウン	-			1997 4	2	1997	4	4 会!		紙(上質紙)	-	-	-	企画書
0025	デジタルスケイブ97受賞者展示会と アップ	メディアタウン	-			1997 2	12	1997	2 1	12 会!	期	紙(上質紙)	-	-	-	-
0026	Media Towns Presents "SELF"	メディアタウン	-			1997 4	2	1997	4	4 会!		紙(上質紙)	-	-	-	-
0027	"PROJECT GOLDEN RAIN" にたいして	不明	-	c -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	作品コンセプト、作家プロフィール
0028	OSCAR SATIO OIWA	不明	-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	作家プロフィール
0029	氏名: 大岩オスカル幸男		-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	作家プロフィール
0030	OSCAR SATIO OIWA	不明	-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	作家プロフィール
0031	PROJECT WORLD	不明	-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版
0032	PROJECT EXPEDITION	不明	-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版
0033	PROJECT SUBWEY	不明	-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版
0034	EXIBITION IN SAO PAULO		-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版
0035	PROJECT GOLDEN RAIN(1)		-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	コンセプト
0036	PROJECT GOLDEN RAIN(2)(3)	不明	-	с -		1995		1995		-		纸(上質紙)	-	-	-	200
0037	TOKYO, 1987 INSTALATION IN STUDIO G		-	с -		1995		1995		-		纸(上質紙)	-	-	-	図版
0038	1987 - TE GALLERY, TOKYO	不明	-	с -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版
0039	PROJECT SACRED MANSTERS OF ART	不明	-	c -		1995		1995		-		紙(上質紙)	-	-	-	図版

3

資料のデジタル化

2011.08 - 12

- 資料のデジタル化には多くの重要な利点があります。デジタル化によって、閲覧など資料へのアクセスが容易になり、原本を繰り返し参照することによる劣化を防ぐことができます。また、デジタル化による複製は、災害や事故などのリスクを回避することにも繋がります。
- P+ARCHIVE では、基本的に全ての資料のデジタル化を、スキャニングと写真撮影によって行いましたが、最も特筆すべきは、ポジフィルムの画像デジタル化です。Morphe では毎回、作品の展示風景やイベントの様子などが、カメラ撮影によって記録されてきました。ほとんどの写真はポジフィルムの形で残されており、その数はおよそ 4000 点にも上ります。これらの膨大なポジフィルムを、いかに適切なコストでデジタル化するかが大きな課題となりました。
- 今回採用したのが、ポジフィルムそのものを接写によって撮影し、デジタル画像を取得するという方法です。まず、特製の装置を使って、ポジフィルムの収められたキャビネをまっすぐに伸ばし、地面に対して垂直になるように設置します。そして後方からライトで光を当て、ポジフィルムを接写で撮影するというものです。撮影後は画像編集ソフトを用いて、原版と見比べながら色彩の調整(カラーマネジメント)、その他適宜明るさや歪みの調整などを行います。こうして、原本のポジフィルムから、IPG 形式の画像データが得られるのです。



ポジフィルムの状態をチェックし、重なりや歪みを修正する。



表面のホコリやゴミを除去する。



専用の装置。キャビネの上下を挟んで 垂直に伸ばす。



背後から光を当て、ポジフィルムを接 写で撮影する。



画像編集ソフトで、現物と見比べなが ら画像の調整を行う。



完成。画像ファイル化されたポジフィルム (イメージ)。



公開に向けての準備

2012.01-03

権利処理

資料の公開に当たって、著作権や肖像権などの権利処理業務を行いました。

Morphe には 1995 年から 2000 年までの 5 ケ年で、約 250 名以上の作家、130 以上の会場 (ギャラリーや商業施設など) など、多くの人々や組織が関わっています。初年度から 15 年以上経過した現在では、連絡先の分からない作家や、クローズしたギャラリー・店舗なども多く、これまでに許諾が得られたのは、関係者全体の 4 分の 1 にとどまっています。引き続き調査を進めながら、資料の利用に関する権利処理を続けていく必要があります。



P+Archive Center での公開

Morphe 資料は、公開可となったものから順次、P+Archive Center での公開を行います。この施設の概要は次の通りです。

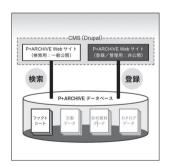
[所在地] 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14

3331 Arts Chiyoda 東京文化発信プロジェクト ROOM302

[開館日] 水曜・木曜の 13:00 ~ 18:00

[主な所蔵資料] 地域・社会に関わるアート・プロジェクトおよびパブリックアート

に関する資料、近年の日本の資料 (1980年代~現在)

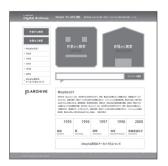


デジタル・アーカイブの公開

また、オンラインによるデジタル・アーカイブとしての公開も行います。P+ARCHIVEでは既に2010年度より、「デジタル・アーカイブ事業」を開始してきました。国内外のアート・プロジェクトの基礎データが登録されており、プロジェクト名やアーティスト名などから検索できるようになっています。オンライン公開されており、常時アクセスが可能です。

URL: http://parchive.xsrv.jp/drupal/

平成 24 年 3 月までを目途に、Morphe 資料に関してもこのデジタル・アーカイブにおいて公開を行う予定です。現在は、システムの構築および資料の著作権・肖像権などの権利処理を進めています。





現代アートの記録と記憶が、アート・アーカイブによって甦る―1990年代の東京・青山で繰り広げられた、 幻のアート・プロジェクト「Morphe」の姿が明らかになる8日間

Morphe 資料アーカイブ活動の成果を、広く一般公開する活動の一環として、アーカイブ展を開催しました。文書・画像・音声・映像などの様々な資料を展示し、Morphe の活動の軌跡を提示したものです。最終日には Morphe 関係者(三潴末雄氏・仲世古佳伸氏)によるトーク・セッションを開催しました。





日時

2011年12月7日(水)-15日(木) 13:00-18:00

場所

3331 Arts Chiyoda 東京文化発信プロジェクト ROOM302

トーク・セッション

2011年12月15日(木) 19:00-21:00



ファイルによる文書の展示

作家資料や事務局資料など、主に紙媒体の資料 を、年度別/作家別に分類してファイルに収め ています。









ポストカード・写真の展示

ギャラリーで行われた、各作家の個展・ グループ展の案内葉書です。壁面の本棚 を利用して展示しています。

巨大写真コラージュの壁面展示

Morphe '98 で伊勢・南勢町で行われたアーティスト・イン・レジデンスの様子を、当時のカメラマン・牧原利明氏が撮影・コラージュした作品です。今回の展示が初公開となります。









ポジフィルム (レプリカ) の展示

ライトテーブルを利用して、ポジフィル ムのレプリカを展示しています。



映像・音声資料の上映 /画像のスライドショー

> Back To The Morphe 1995-2000

地域社会に関わるアート・プロジェクトをアーカイブ化することの意義

柴田 葵 (本プロジェクト推進協力者/桜美林大学非常勤講師)

日本では 1990 年代頃より現代アートの分野で、「アート・プロジェクト」と呼ばれる活動形態が注目され、地域や社会と密接に関わりながら、社会におけるアートの枠組自体への問い直しが行われてきました。本年度の「記録と記憶」プロジェクトの対象とした Morphe '95-2000 は、現代アートが画廊から飛び出して都市の消費文明と対峙したという意味で、比較的早期のアート・プロジェクトの事例に数えられるでしょう。とりわけ 2000 年代以降の現在では、まさに様々な地域で多様な担い手によって、数多くのプロジェクトが進行している状況です。

ところで、これらのアート・プロジェクトに共通して見られる大きな特徴に、「プロセスの重視」があります。アーティストによって最終的に作られた「完成作品」よりも、発端・構想に始まり、プロジェクトをめぐる議論・交渉・行為など過程そのものを重要視する、という考え方です。場合によっては、例えば川俣正が各地で行っている活動のように、「作品」はあくまで一時的なインスタレーションに過ぎず、一定期間後には撤去してしまいうこともあります。そこでは仮設の作品ではなく、活動のプロセスこそ真の作品なのです。

ここで問題なのは、プロセスをいかに記録・保存し、広く伝えていくかということです。記録によってプロセスを伝えることができなければ、そのプロジェクトの真価は理解されず、場合によってはプロジェクトがあったという事実すら、後世には伝わらないかもしれません。多種多様なアクターが関わるプロジェクトでは、資料を一元的に管理・保存することが困難であり、時の経過と共に散逸・消失してしまいがちです。ましてや、それを一般に公開し活用するとなると、まだそのための仕組みは十分に整っていません。そもそも、アート・プロジェクトに関する資料の持つ価値が、一般的にはまだあまり認識されておらず、多くの貴重な資料が廃棄されたり、倉庫の中で眠っているのが現状と言えるでしょう。

P+ARCHIVE の「現代アートの記録と記憶」は、まさにこのような問題意識から出発した活動です。 初年度の今回は、旧 Morphe 事務局の協力により約 6000 点の資料を収集することができましたが、 これらは 1995-2000 年にかけての東京・青山における現代アートの状況、都市とアートをめぐる人々の 葛藤や挑戦のプロセスを伝えてくれるものです。今後は収集の対象を広げていくと同時に、資料の 公開と活用方法に検討を加え、いかに「記録と記憶」を次世代に伝えていくか、より掘り下げて模索していく方針です。





本冊子は、「東京アートポイント計画」が共催する「P+ARCHIVE」の事業成果物として作成されました。

企画 東京都

東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団) 特定非営利活動法人 アート & ソサイエティ研究センター

編集制作 特定非営利活動法人 アート & ソサイエティ研究センター

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 II-I4-3IIE

Email: info@art-society.com

URL: http://www.art-society.com/

執筆 柴田葵、仲世古佳伸、三潴末雄

写真撮影 高瀬八一 デザイン 池上正就

発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化発信プロジェクト室

〒 130-0026 東京都墨田区両国 3-19-5 シュタム両国 5 階

TEL: 03-5638-8800 FAX: 03-5638-8811

Email: info-ap@bh-project.jp URL: http://www.bh-project.jp

発行日 平成 24 年 3 月

無断転載・複製を禁ず。

「東京アートポイント計画」とは、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶ ことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指 し、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴 史文化財団が展開している事業です。

特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センターとは、都市や地域における芸術文化活動並びにパブリックアートの情報発信及び調査研究・実施活動に関する事業を行い、都市や地域の文化的発展と市民の文化環境の向上に寄与することを目的として活動する非営利芸術団体です。



